

企業短期経済観測調査（道北\*地域分）  
（調査対象企業：道北\*48社）

※上川、宗谷、オホーツク総合振興局管内  
回答社数構成比 %ポイント  
（ ）内は前回調査時予測

（判断D. I.）

	2014/6月	9月	12月	2015/3月	6月	9月	2015/12月までの予測
業況判断 < 良い - 悪い >	5	7	4	▲4	13	(12)	▲2
うち製造業	0	10	18	27	27	(9)	0
非製造業	6	6	0	▲14	8	(14)	▲3
国内での製商品・サービス需給 < 需要超過 - 供給超過 >	▲14	2	▲13	▲13	▲9	(▲9)	▲19
製商品在庫水準 < 過大 - 不足 >	0	6	0	▲6	▲3	(-)	-
生産・営業用設備 < 過剰 - 不足 >	▲7	▲12	0	▲5	▲5	(▲11)	▲2
雇用人員 < 過剰 - 不足 >	▲19	▲21	▲23	▲15	▲13	(▲31)	▲25
資金繰り < 楽である - 苦しい >	▲4	0	0	▲2	6	(-)	-
金融機関の貸出態度 < 緩い - 厳しい >	25	20	25	24	25	(-)	-
借入金利水準 < 上昇 - 低下 >	▲3	▲10	▲11	▲11	▲7	(▲9)	2
販売価格 < 上昇 - 下落 >	5	7	11	9	0	(7)	2
仕入価格 < 上昇 - 下落 >	38	42	40	40	36	(45)	38

（注）2014年9月以前は調査対象企業見直し前の旧ベース、2014年12月以降は見直し後の新ベース。

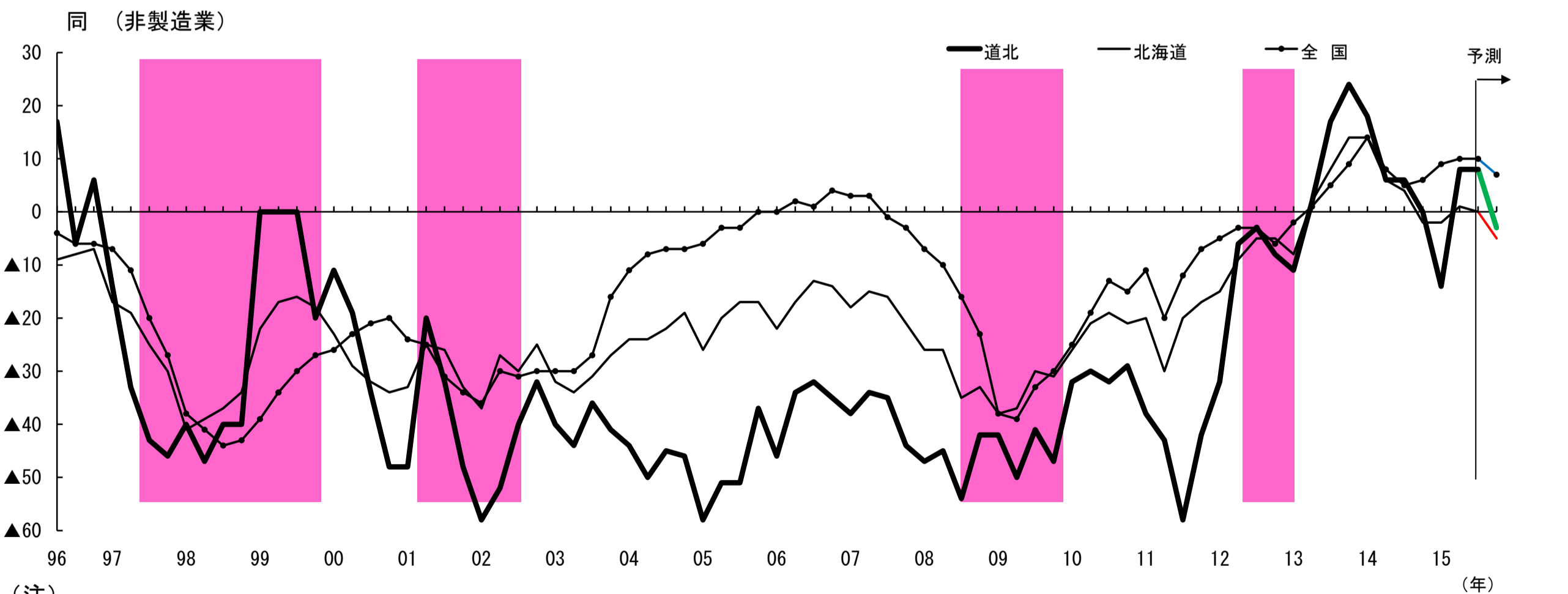
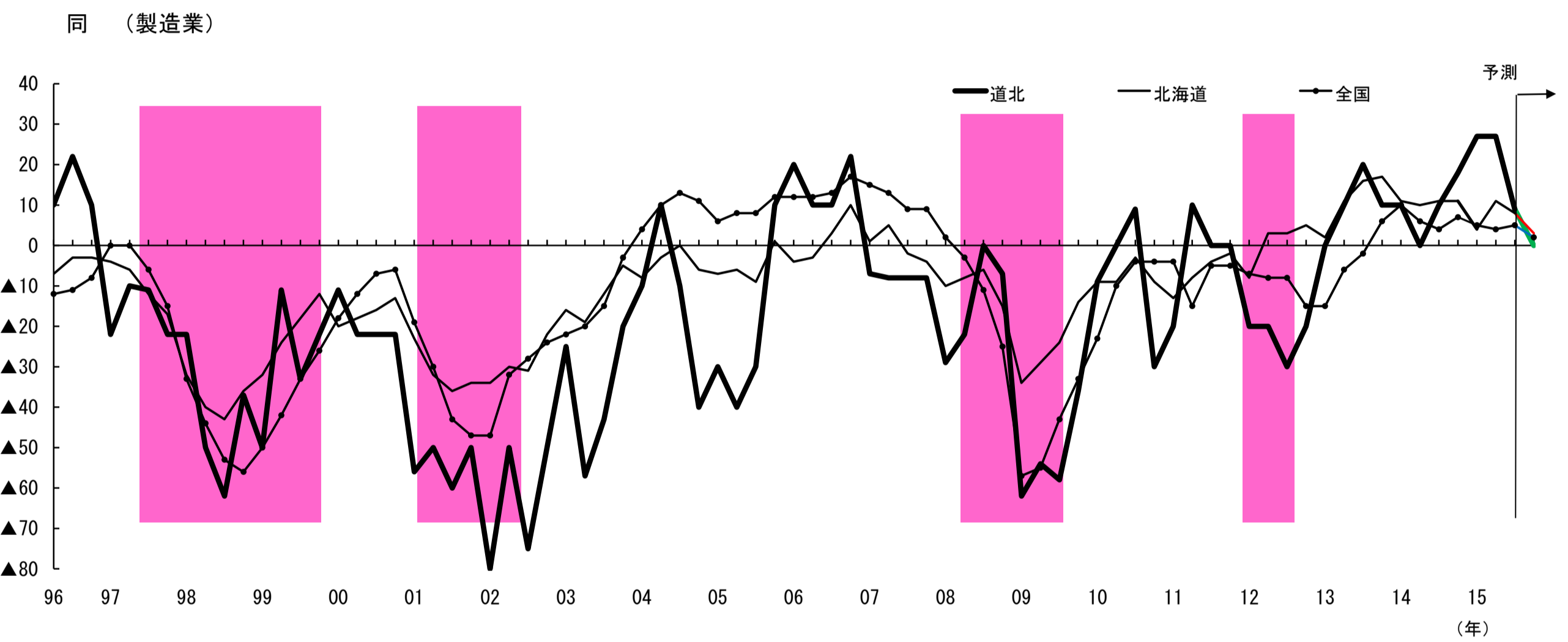
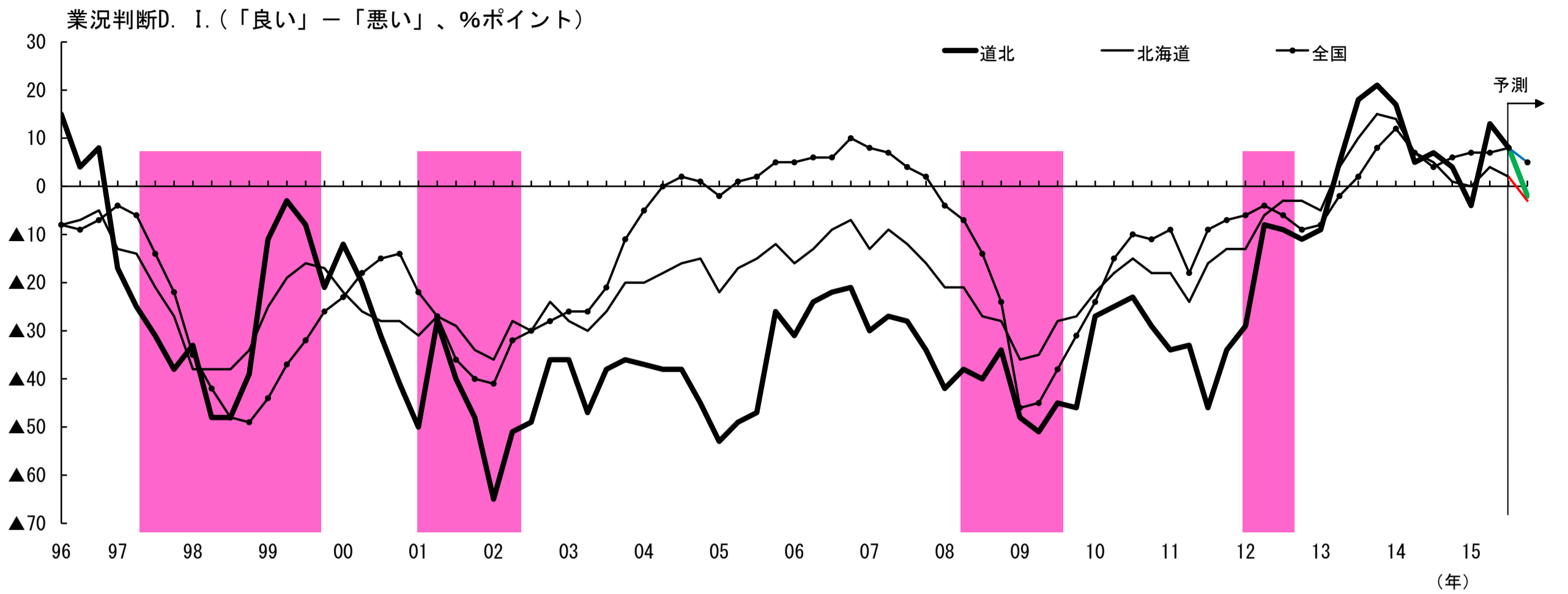
「製商品在庫水準判断」および「資金繰り判断」、「金融機関の貸出態度判断」の「2015/12月までの予測」は調査対象外。

全産業、前年度比%、  
< >内は前回調査比修正率%

（事業計画）

	2014年度実績	2015年度計画			
		上期		下期	
売上高	-4.3	+1.6 < -0.1 >	+4.8 < +0.5 >	-1.2 < -0.6 >	
経常利益	-47.4	+10.5 < -1.7 >	-66.9 < -19.0 >	+59.0 < +8.5 >	
当期純利益	-57.0	+35.7 < -7.3 >	赤字転化 < -25.2 >	2.7倍 < +3.0 >	
設備投資額	+97.6	-76.8 < +10.0 >	-71.0 < -13.8 >	-79.5 < +33.3 >	

# 2015年9月短観・調査結果



(注)  
 道北：上川、宗谷、オホーツク総合振興局管内  
 2014/9月以前は調査対象企業見直し前の旧ベース、2014/12月以降は見直し後の新ベース。  
 シャドローは景気後退期（内閣府調べ）

## 道北地域の企業短期経済観測調査結果（2015年9月）の概要

- 調査対象企業：道北地域 48 社（製造業 11 社、非製造業 37 社）
- 回答率 100%（有効回答社数 48 社）
- 回答期間：2015 年 8 月 26 日～9 月 30 日

### 1. 業況判断 DI

- 9月の業況判断 DI（全産業ベース）は+8 と、前回 6 月調査に比べて悪化した（前回+13、前回比▲5 ポイント）。
  - 製造業の業況判断 DI は+9 と、前回調査比▲18 ポイントの悪化。  
…… 木材・木製品が改善したものの、建設関連と電気機械が悪化。
  - 非製造業の業況判断 DI は+8 と、前回調査比横這いだった。
- 先行きの業況判断 DI（全産業ベース・12 月までの予測）は▲2 と、3 四半期振りにマイナス転化する予測。
  - 製造業の業況判断 DI は、建設関連を中心に引続き悪化し、ゼロとなる見込み（+9⇒0）。
  - 非製造業の業況判断 DI は、卸売や飲食など改善する業種もあるものの、建設、小売やサービス業を中心に悪化し、マイナス転化の見込み（+8⇒▲3）。

### 2. 各種判断 DI

- 「製商品・サービス需給判断 DI〈需要超－供給超〉」は▲9 と、前回比不変だったが、先行きは悪化（▲19）を予測。「製商品在庫水準判断 DI〈過大－不足〉」（▲3⇒+5）と「生産・営業用設備判断 DI」〈過剰－不足〉」（▲5⇒+2）は、ともにプラス転化。
- 雇用人員については、建設やサービス業を中心に引続き不足と判断する企業が多く（「雇用人員判断 DI」〈過剰－不足〉：▲13⇒▲15）、先行きも、建設を中心に不足すると回答する企業が増加（同▲25）。
- 仕入価格については、ガソリン価格の下落等を映じて低下していると回答す

る先もみられたものの、引続き上昇していると判断する先が多い（「仕入価格判断DI」〈上昇－下落〉：+36⇒+27）。一方、販売価格については、上昇していると回答する先は多くはない状況（「販売価格判断DI」〈上昇－下落〉：+0⇒+2）。先行きも同様の傾向が続く見込み。

- この間、企業を取り巻く金融環境についてみると、借入金利水準の低下が続いている中で、金融機関の貸出態度も引続き緩い状況が続いている（「借入金利水準判断DI」〈上昇－低下〉：▲7⇒▲7、「金融機関の貸出態度判断DI」〈緩い－厳しい〉：+25⇒+15）。こうした中で、資金繰りに関しては、苦しいと答える企業が増加（「資金繰り判断DI」〈楽である－苦しい〉：+6⇒▲10）。

### 3. 事業計画

- 2015年度の事業計画は、増収・増益の見通しとなっている。売上高は前年度比+1.6%と小幅の増加見通しに止まっているが、経常利益に関しては、建設関連や卸売、サービス業を中心に、全体で前年度比+10.5%、当期純利益でも同+35.7%の増益を見込んでいる。一方、設備投資額に関しては、前年度にみられた大口の工場・施設等の新增設が今年度は少ないことから、前年度比▲76.8%と大幅に減少する計画となっている。

以 上